

図書館でボランティア活動をしてくれた中高生のみなさんに、オススメの一冊を紹介していただきました！（編集にあたり、内容は変えずに一部修正しています。）



『図書館のキリギリス』

竹内 真／著 双葉社

この本は、司書の資格を持っていない人が、学校司書として生徒や前任の司書さんなどに関わりながら、図書室や本の事を深く知っていく物語です。司書の仕事に興味がある人はぜひ読んでみてください！

(なごみ)

『もらい泣き』

沖方 丁／著 集英社

最近感動足りてますか？
私はこの本を読んで感動しています。短編集なのですが、人生の楽しさや辛さが感じられます。涙が絶対出ます、止まりません。ぜひ涙、滝のように流してください！！

(脱力系女子)

●ご感想、本の紹介など、下記のメールアドレスにお寄せください。
メール投稿の際は件名にYOUNG=JIN、本文に年齢・ペンネームを明記してください。

●本の表紙掲載については、出版社の許諾を得ています。
編集・発行 長岡市立中央図書館 (0258-32-0658)

図書館HP <http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp>
図書館メールアドレス lib@city.nagaoka.niigata.jp

スマホ
サイト→



←携帯
サイト

WE'RE

長岡市立中央図書館ヤングアダルト News

Vo 1.50 2018.2

YOUNG-JIN

うみのむこうへ

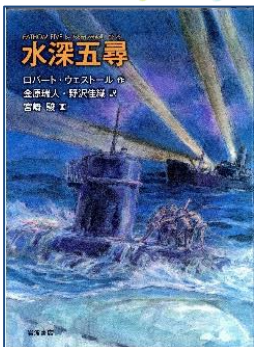


なんとなく退屈で、変わり映えしない毎日…。
そんな時は本を開いてみよう。
きっと、わくわくする冒険のきっかけが待っている。



『ジョン万次郎 海を渡ったサムライ魂』
マーギー・プロイス／著 金原 瑞人／訳
集英社

今から約 180 年前、高知の貧しい漁師の子だった中浜万次郎は、乗り組んだ漁船が嵐で漂流、アメリカの捕鯨船に助けられます。その後、親切な船長の養子となってアメリカへ渡り、いじめや差別にあい大変な苦労をしますが、困難にくじけることなく強く生きていきます。万次郎の強さの秘訣はどこにあったのでしょうか。



『水深五尋』

ロバート・ウェストール／作 金原 瑞人・
野沢 佳織／訳 宮崎 駿／画 岩波書店

舞台は第二次大戦下のイングランド。チャスは、小さい漁港に住む16歳の男の子。いつも友だちのセスとふざけあっては、母さんに叱られていました。ある夜、海の方角に爆発音を聞き、翌朝見慣れない漂着物を拾います。友だちと興味本位の探偵ごっこを始めたつもりが、次第に深刻な事態になっていき…。迫力ある絵は アニメーション映画監督の宮崎駿さんが描いています。



『旅を楽しむ! トリビア大百科 ロンリープラネット』

ナイジェル・ホームズ／著 八幡谷 真弓／訳
日経ナショナルジオグラフィック社

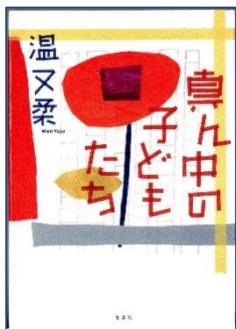
海外に行きたい!と考えている中高生もたくさんいると思います。そんなみなさんにオススメしたい一冊です。各国で使われているコンセントや、チップの相場、そしてラクダの乗り方まで!知っているとしためになる情報が満載です。



『小さなバイキングビッケ』

ルーネル・ヨンソン／作 エーヴェット・カールソン／絵
石渡 利康／訳 評論社

臆病で力も弱くてけんかの嫌いな少年ビッケは、バイキングの族長の息子。そんなビッケが、初めて海賊船で冒険の旅に出ました。次々に襲いかかる困難におびえながらも、じつくりと頭を働かせ、機転を利かせて知恵で立ち向かってゆくビッケの活躍が小気味よい物語です。装丁や挿絵も、かわいらしく魅力的です。



『真ん中の子どもたち』

オン ユウジュウ
温 又 柔／著 集英社

19歳の琴子は、中国語を勉強するために意気揚々と上海へと旅立ちました。留学生として様々な人と交流してゆくなかで、母が台湾人で父が日本人である自分の境遇を見つめ直し、悩み迷いながらも前へ進もうとする姿が描かれています。家族の温かさ、友や人とのつながりの大切さを感じる1冊です。



『茶畑のジャヤ』

中川 なをみ／作 鈴木出版

学校で仲間外れにされている周は、唯一の友達も離れていってしまい、学校に行きたくなくなります。そんな時、スリランカで仕事をしているおじいちゃんに誘われ、スリランカに一緒に行くことになりました。そこは、周の知らない初めてだらけの世界でした。海の向こうの世界は周にどんな変化をもたらすのでしょうか?

